### 基礎OS(12) 仮想記憶(1)

2012年度(3時限目)

## 問1 メモリアクセス時間

主記憶のアクセス時間を2マイクロ秒、ページ置き替え時間の平均を10ミリ秒とする。ページフォールトの確率が4×(10のマイナス6乗)の場合、実効 アクセス時間は何マイクロ秒か. 小数点以下2桁(3桁目を四捨五入)で答え

EAT=Ap+B(1-p) p:ページフォールト率 A:ページフォールト時の処理時間(主にページアウト、ページイン時間) B:ページフォールトしない時の処理時間(主記憶アクセス時間)

単位をマイクロ秒にして計算 EAT= $10 \times 10^{3} \times 4 \times 10^{-6} + 2 \times (1 - 4 \times 10^{-6})$ =0.04+2-0.000008=2.04 [マイクロ秒]

# 問2 記憶管理

OS の記憶管理機能 1 ~ 3 に対応する用語を選択せよ. (基本情報 平 成17年度秋期 問30改)

1. あらかじめプログラムを複数のセグメントに分けて2次記憶に格納し、アプリケーションプログラムの処理によって主記憶に読み込む。
2. 物理記憶と論理記憶を固定長の単位に分割し、効率よく管理する。これによって、割り当てられた物理記憶よりも大きなプログラムが実行できる。 3. プログラムを一時的に停止させ、使用中の主記憶の内容を2次記憶に退避する. 再開時には、退避した内容を主記憶に再ロードし、元の状態に戻す.

A. スワッピング

B. ページング C. オーバレイ

C. オーバレイ B.ページング

A.スワッピング

次スライド参照

p.129 主記憶より大きいプログラムの実行

- 実行には、常に全てのプログラムは必要ではない
- オーバレイ:アプリケーションプログラムにおいて実現
  - プログラムを幾つかのセグメントに分割
  - APの制御により、必要なセグメントのみを主記憶にロート・
- スワッピング:OSにより実現(タイムシェアリングシステムのOS)
  - 待機中のプログラム全体を2次記憶にスワップアウト
  - 空いた主記憶に処理するプログラムをスワップイン
- 仮想記憶:OSにより実現
  - ページングの機能を拡張(注)
  - 当面の計算に必要なページだけを主記憶に置く

注:ページ表に有効/無効ビットを追加(ページが主記憶上にあるかどうかを管理) 論理記憶を固定長のページに分割し、ページ表のページ番号と枠番号の対応関係 により、論理アドレス(仮想アドレス)を物理アドレスに変換する点はページングと同じ

問3

仮想記憶のシステムにおいて、参照した論理記憶のページが主記憶上に存在しない場合、以下の処理順序がどのようになるかを解答せよ.

- ページフォールトの発生
- B. ページイン C. ページアウト
- 犠牲ページの選択
- ページ表の更新

次スライドを参照

答 A. D. C. B. E

主記憶上の枠を空けるために、犠牲ページを選ぶ. 王記憶上の枠を空けるために、犠牲ページを選ぶ、ページアウトは、そのページを2次記憶に書き出す、(ページの情報は、ロードされた後の計算により、内容が変更されているので、それを退避する。)ページイン処理は、退避した内容を復元する。最後に、ページ表を更新し、再度ページの内容を参照すると、今度はページが存在するためOKとなる。

仮想記憶の概念 論理記憶の方が割り当てられた主記憶よりも大きい ·物理記憶の全体を2次記憶上に置く(論理記憶の全てのページを収容) ・物理記憶のコピーを主記憶上に置く(当面の計算に必要な分だけ) 論理記憶 主記憶 照 ページ表 ⑤ 0 5 1 ・ 5 2 6 1 2次記憶 0 ①参照 1 B 2 ③ページアウト 2 С 3 3 0 4 0 5 7 1 3 D 4 <del> </del> A B **④**ページイン 「 4 Е Α CDE 5 F 6 С 有効/無効ビット F F  $\square$ ①ページを参照 8 ②主記憶に無い(ページフォールト) ③犠牲ページを選び、ページアウト(注) ④空いた枠に参照ページをページイン 9 ⑤ページ表の変更 10 10 再度①のページ参照を実施(今度はOK) 物理記憶のコピー 物理記憶の全体 注:これまでの計算結果を2次記憶に退避 (一部のみ)

1

問4 仮想記憶の説明

以下の①に最適な用語はどれか

仮想記憶における(①)には、ページが主記憶にあるか無いかを示す有効/無効ピットが設定されており、プロセスが、主記憶上にないページをアクセスしようとすると、(②)と呼ばれる割り込みが発生する。この割込みは、(③)割込みである。その結果OSが起動される.

OSは、ページの置き換えが終わるまで、このプロセスを(④)状態にする。また、実行が可能な状態(すなわち(⑤)状態)のプロセスがあれば、そのプロセスを(⑥)状態にする。このような実行の切替え処理を(⑦)と呼ぶ

(A) ページ表

B. ページ

C. ページフォールト

D. ページイン

E. ページアウト

問5 仮想記憶の説明

以下の④に最適な用語はどれか.

仮想記憶における(①)には、ページが主記憶にあるか無いかを示す有効/無効ビットが設定されており、プロセスが、主記憶上にないページをアクセスしようとすると、(②)と呼ばれる割り込みが発生する。この割込みは、(③)割込みである。その結果OSが起動される。

OSは、ページの置き換えが終わるまで、このプロセスを(④)状態にする。 また、実行が可能な状態(すなわち(⑤)状態)のプロセスがあれば、その プロセスを(⑥)状態にする。このような実行の切替え処理を(⑦)と呼ぶ。

A. 新規

B. 実行中

〇 待機

D. レディ

E. 終了

問4. 問5 仮想記憶の説明

以下の①~⑦に最適な用語を選択肢から選べ.

仮想記憶における(①)には、ページが主記憶にあるか無いかを示す有効/無効ビットが設定されており、プロセスが、主記憶上にないページをアクセスしようとすると、(②)と呼ばれる割り込みが発生する。この割込みは、(③)割込みである。その結果OSが起動される。 OSは、ページの置き換えが終わるまで、このプロセスを(④)状態にする.

OSは、ページの置き換えが終わるまで、このプロセスを(④)状態にする.また、実行が可能な状態(すなわち(⑤)状態)のプロセスがあれば、そのプロセスを(⑥)状態にする.このような実行の切替え処理を(⑦)と呼ぶ.

#### 【選択肢】

ソフトウェア, ハードウェア, ファームウェア, プロセス, プロダクトページ表, ページ, ページフォールト, ページイン, ページアウト新規, 実行中, 待機, レディ, 終了コンテクスト切替え, レジスタ退避, 割り込み処理, I/O処理

問4. 問5 仮想記憶の説明

仮想記憶におけるページ表には、ページが主記憶にあるか無いかを示す 有効無効ビッが設定されており、プロセスが、主記憶上にないページをア クセスしようとすると、ページフォールトと呼ばれる割り込みが発生する。こ の割込みは、ソフトウェア割込みである。その結果OSが起動される。 OSは、ページの置き換えが終わるまで、このプロセスを特機状態にする。 また、実行が可能な状態(すなわちレディ状態)のプロセスがあれば、その プロセスを実行中状態にする。このような実行の切替え処理をコンテクスト

ページフォールトによる状態遷移とコンテクスト切替 P2 Р1 OS(割込み処理) 実行中 2次記憶 (事象待ち) レジスタ退避 (ハート・ディスク) ページ<u>₩</u>ニルト 転送処理 P1は、ページング処理が終 እዚታ わるまで実行できない レジスタ復元 P1を待機状態にする 待機 (事象完了) へーン表設定 割込み ージアウト 実行中 P1をレディ状態にする (プリエンプション)・ レシ・スタ退避 量子時間経過 ヘ゜ーシェイン レジスタ復元 実情中

# 添付ファイル 表1(問6,問7) 98 1 183 1 0 25 1 1 表2(問8~10):値は2進数 1100010 1 10110111 1 0 0 11001 1

OS2012®









